

令和8年度 第1回伊賀市総合教育会議 議事概要

日時 : 令和8年8月27日(木) 午後2時から

場所 : 伊賀市役所 4階 庁議室

出席者 : 稲森市長、宮崎副市長、澤田教育長、岡森教育委員、中教育委員、野口教育委員、内藤教育委員、風隼政策調整統括参与兼未来政策部長、松山未来政策部次長兼政策調整監、竹森未来政策課長、福岡地域力創造部長、杉永文化振興課施設係長、福岡教育委員会事務局長、中教育委員会事務局次長、小林社会教育推進監兼中央図書館長、藤田教育総務課長、太田学校教育課長、笠井文化財課長、藤原生涯学習課長、西口生涯学習課主任(社会教育主事)、岡田教育総務課教育政策係長

議題 :

協議事項

(1)伊賀市美術博物館基本計画の答申について

報告事項

(1)市民参加型予算事業(わくわくアイデア300)について

(2)伊賀市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

(3)「地域とともにある学校づくり」について

【事務局長】 それでは定刻となりましたので、ただいまより令和8年度第1回伊賀市総合教育会議を始めさせていただきます。皆様にはご多忙のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の資料につきましては、教育委員以外の方は、デスクトップにある「オフィス公開更新キャビネット」の教育総務課フォルダ内にある「第1回総合教育会議」のファイルからご覧いただけます。教育委員の皆様には、8月25日にメールで資料を送付し、本日机上に配付しております。資料についてご確認いただけますでしょうか。

次に、会議の公開についてですが、伊賀市総合教育会議運営要綱第5条により、会議は原則公開となっております。本日の会議を傍聴される方や報道関係者等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。あわせて、議事録作成のための録音と、議事概要の公開についても、ご了解いただきますようお願いいたします。本日ご出席いただいている皆様は、次ページの名簿のとおりです。議事の都合により、出席者の入れ替わりをさせていただく場合がありますので、ご了解をお願いいたします。

それでは、事項書に沿って進めさせていただきます。事項の1つ目、挨拶については、稲森市長からいただきたいと思います。

【市長】 皆さん、こんにちは。大変ご多忙のところ、今年度第1回目となります総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃から伊賀市の教育行政、そして子どもたちの健やかな成長

のために多大なるご尽力をいただいております、本当にありがとうございます。まず、伊賀市の教育行政に関しまして、大きな動きとして、学校体育館への空調設備整備を前倒しして進めていくことを発表させていただいております。これまでも教育委員会、あるいは福岡事務局長からも、早くやるべきだと再三言われていたわけですが、先般の災害を受けて、自分の認識が足りなかったと強く感じました。これまで教育委員会から要望が上がってきていたことではありますが、真夏の教育環境や部活動のことだけではなく、防災拠点としての機能も含めて、しっかり考えていかなければならないと強く認識しました。そうしたこともあり、9月議会でも前倒しで設置を進めるための予算を計上させていただいております。

また、喜びに堪えないのですが、多様な学びの検討会議を10月から立ち上げていただくということで、予算もこの9月議会に上げていただきました。教育長とも、県内で唯一の夜間中学を見学と一緒に行かせていただき、子どもたちの様子や生徒さんの様子、そして80代の方も含めて毎日いきいきと学校に来ているというお話も伺いました。何としても、まずは可能性の調査も含めて、伊賀市で取り組んでいきたいと考えております。多様な学びの場の検討に向けて、有識者の皆さんや、不登校支援や多文化共生に取り組んでこられた皆さんにも入っていただく委員会ができることを、本当にうれしく思っております。

本日の会議では、伊賀市美術博物館基本計画の答申についてご意見をいただきたいと思っております。その他、市民参加型予算制度も取り組んでいただき、多くの市民の皆さんからアイデアが寄せられ、庁内からも課題提案が出ていると伺っており、うれしく思っております。そうした状況についてもご報告をいただくと聞いております。

また、小中学校の教職員の働き方、そして地域とともにある学校づくりについても報告事項としていただいております。

総合教育会議は、子どもたちがよりよい環境で学べるよう、皆さんの垣根を越えて協議と調整を行う場ですので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【事務局長】ありがとうございました。それでは議事、協議事項に入らせていただきます。この総合教育会議は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、協議・調整し、課題や方向性を共有しながら教育行政に取り組むものです。いろいろご意見やご提案をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は、協議事項が1件、報告事項が3件となっております。限られた時間ですが、議事の進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは、協議事項の1つ目、伊賀市美術博物館基本計画の答申について、文化振興課から説明をお願いいたします。

【文化振興課施設係長 資料に基づいて説明】

【事務局長】ありがとうございました。説明いただいた内容について、ご意見、

ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

【委員】伊賀市美術博物館ということですが、そこに芭蕉記念館も加わるという理解でよろしかったですか。

【文化振興課施設係長】中核は芭蕉記念館です。そこに伊賀の歴史文化を加えていければと考えています。

【委員】私たちは芭蕉のふるさとだと当たり前のように思っていますが、全国的に見たときに、「伊賀市といえば芭蕉」と連想してもらう力は、まだ少し弱いのではないかと考えています。松山市では毎年俳句大会を開催しており、何十年も積み重ねてきていることを考えると、やはり芭蕉のまち、俳句のまちという部分がある、もしかすると他市に取られてしまっているのではないかと少し残念に思っています。小中学校では夏休みに俳句の宿題があるのですが、それは伊賀の文化ではあるものの、宿題としての俳句であるというところから、私自身も含め、まだ苦手意識が払拭できていないと思います。やはり、これを教育とつなげて考えたときに、子どもたちが歴史文化に触れ、考え、表現するということが大切であり、普段から自分の思いや感想を5・7・5のリズムで表現することが、子どもたちにとって自然な姿であってほしいと思います。たとえば徳島県では、小学校で阿波踊りを学び、卒業するまでに身につけるという話を聞いたことがあります。高校へ進学して地域を離れるときも、それを確認し、郷土愛や誇りを持たせて外へ送り出すということです。そうしたことこそが郷土学習だと思いますし、地域の学校教育の中で、芭蕉記念館が美術博物館構想の中に生きていてほしいというのが私の意見です。それから、先生方の部会で作っていただいている句会カードについてです。各学校に配布されていると思いますが、せっかくそうしたツールがあるのに、十分に活用できていないのではないかと考えています。俳句ができる先生がいらっしゃる学校では、楽しんで取り組んでいると伺っていますが、全体としてはまだ使い切れていないようです。今後は、そうしたツールも活用して、伊賀の子どもたちに俳句の楽しさを自然に伝えられるよう、一緒に考えていただけたらと思います。

【地域力創造部長】貴重なご意見をありがとうございます。句会カードだけで終わってしまうのではなく、やはり継続的な仕組みが必要だと考えております。これまでもソフト事業として、俳句の宿題や、芭蕉に関する基礎的な学習会などを行ってきました。おっしゃっていただいた松山市のような全国的な取り組みや、他市の事例も参考にしながら、学校と連携して、俳句の楽しさや面白さを子どもたちに伝えていきたいと考えています。子どもたちが俳句をより身近に感じ、自然に表現できるような学びの機会を、教育委員会の皆様と一緒に考えていければと思います。

【委員】大垣市は「むすびの地」ということで、とても素晴らしい施設を作っていただいております。実際に訪問したとき、中学生が案内してくれて、施設としても非常に良かったです。あれだけのものを作るには、やはり敷地が必要だと思います。伊賀市は歴史もあり、文化もあり、とても素晴らしい地域ですので、今ここで生まれ育つ子どもたちや市民だけではなく、伊賀を訪れる方々にも「伊賀市ってすごい」と思ってもらえるような施設をつくっていただきたいと思います。

また、伊賀の文化を集約して見せる場所として、陶芸や組紐など、伝統的なものを紹介できる場であってほしいと思います。たとえば備前焼を見たとき、同じものでも作り手によって価値や表情が違ってくるのがわかります。伊賀はそうではなく、一人一人の思いが込められて作られているというところを見てもらえる場所があったらいいと思っています。忍者の施設はありますが、やはり少し訪れにくい印象もありますので、今回の美術博物館構想では、伊賀の文化をもう少し幅広く入れていただきたいというのが私の意見です。ただし、あまり小さい施設では収まらないと思いますので、どういうものを中に入れていくのか、市長の意見を聞かせてください。

【市長】芭蕉記念館の検討は平成6年から繰り返されてきましたが、今回の美術博物館構想では、事業費や持続可能な運営を考えると、少し夢が膨らみ過ぎたのではないかという思いもあります。一方で、旧上野図書館を有効活用するという考え方は、1つの方法として妥当だと思います。伊賀の特徴は、上野にしても大山田にしても、さまざまな文化や芸術があり、街中にもギャラリーや歴史的建造物が数多くあることです。大きな建物を新たに建てるより、芭蕉記念館としての機能を確保しつつ、アウトリーチや学芸員による対話的なコミュニケーションを通じて、芭蕉や伊賀の文化をもっと知ってもらえるような、ハブのような存在にしていくべきではないかと思います。敷居が高くなってはいけませんし、子どもたちにも親しめる施設であることが大事です。

【委員】市民が親しみを持てることは大事だと思います。また、市外から来られた方や外国人観光客にも興味を持ってもらえる、伊賀市らしい象徴的な施設であってほしいと思います。

【委員】委員がおっしゃったことと重なる部分が多いと思いますが、伊賀市は県内の中でも多くの貴重な文化財を所蔵している自治体です。それらが今は点在しているので、これを一堂に会して収蔵できるような施設が必要なのではないかという部分も伊賀市美術博物館構想の中で捉えられていたと思いますが、一定の面積やスペースがないと伊賀市が所有している素晴らしい文化的財産を安全に、機能面を豊かに保存することは難しいと思います。文化財の保存と継承のためには一定の機能が必要です。このことを踏まえて、専門の方々が答申として持ってきていただいたのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

【市長】おっしゃるとおりです。

【地域力創造部長】場所につきましては、旧桃青中学校と旧上野図書館の2ヶ所が併記されています。面積としても3,800㎡程度必要とされています。ただ、市の財政状況などを鑑みて、市長としては出来るだけあるものを活用するという意向です。また、必要なのは政策的な連動であると考えます。様々な条件があると思いますので、必要な条件に当てはめて考えていきたいと思っています。

【委員】分かりました。もう1つ求められている意見として、ソフト面として教育にどのような活用方法があるか、今後どのようなことを求めていくかということです。委員の説明にもありましたが、観光客がバスで来た際に、十分な駐車スペースはあるのか、あるいは、子どもたちが学習に使わせていただく時に、遠方の学校からバスで来る時に駐車スペースがあるのかなど、そのようなことも含めて子どもたちや市民の方の利活用の場所として十分な駐車スペースや交流の場としてディスカッションや学習するスペースなどを取り入れていただければ良いと思いますが、そういった検討状況について教えてください。

【地域力創造部長】色々な施設と併せて、所蔵している文化財が貯蔵できるかどうかで場所の選定も含めて考えていきたいと思っています。

【委員】美術博物館ということですが、基本計画のメインのコンセプトが、観光施設なのか、郷土教育の場なのか、収蔵展示なのか、少し見えにくいところがあります。芭蕉記念館は耐震上の課題もあるので移転しなければならないのだと思いますが、美術博物館というお題の中で、現代美術や彫刻、化石なども含めて幅広いものを扱うのかとなると、かなり大きな箱が必要になると思います。箱を決めてから中身を考えるのか、中身を決めてから箱の大きさを決めるのか、予算と箱でコンテンツを決めるのか、そのあたりが大事だと思います。私としては、教育委員会の立場からすると、郷土教育に軸を置いてほしいと思っています。中途半端に観光の方に寄ってしまうと、よいものがないのではないかと感じますので、軸をしっかりとって検討していただきたいです。

【地域力創造部長】ありがとうございます。誤解があったかもしれませんが、今の段階では場所の選定や、既存の建物が活用できるかどうかをこれから検証していく段階です。箱だけを先に決めるということではありません。芭蕉記念館の機能を確保しながら、他の施設でどんなことができるのか、どういう機能を持たせるのかを、これから皆さんと議論していきたいと思っています。

【委員】以前の計画では、美術館は別だったと思いますが、いつの時点で芭蕉記念館と一緒になったのでしょうか。

【文化財課長】会議等に入らせていただいているということで発言させていただきます。最初から芭蕉記念館の老朽化のことが課題になっている中で、そこが1つの軸になっております。また、委員がおっしゃられたように郷土教育、歴史文化の保存継承、市外の方へのアピールも必要ではありますが、それをどのように伝えていくのか、子どもたちにどう伝えていくのかという部分をコンセプトの中で議論、検討をいただいた部分であります。また、先ほど担当が資料に基づき説明を行いました、観光ではなく郷土教育を軸に考えているのが現状であります。美術博物館の名称については、仮称のような部分があり、伊賀を知っていただく施設というイメージを持っていただくほうが、より適切かなと思っております。具体的な名称については、これから色々な形の中で議論検討になると思いますが、機能的な部分では様々な伊賀にまつわる文物を継承する場として議論検討を進めていただきました。

【委員】イメージとしては、郷土資料館のような方向性でしょうか。

【文化財課長】芭蕉記念館の機能の劣化が著しく重要文化財を含めて保管することが大きな課題になっております。そういう意味では芭蕉記念館機能をきっちり担保することが1つの柱になると思いますし、他の文化財についても適切に保管し、広く知っていただく場であるという理解をしております。

【副市長】今おっしゃっていただいたのは、資料の3ページに「施設の目指す姿」として「芭蕉翁のふるさと 伊賀の歴史文化 ひろがる未来への拠点」と書かれておりますが、これが今回のコンセプト（理念）になります。まだ仮称でありますので、どのような名前になるか分かりませんが、芭蕉を中心とした施設となります。今後、この施設で課題になるのは収蔵庫であります。収蔵するには一定の面積が必要だと思います。また、収蔵については、ただ置ければいいというものではなく、火災対策なども含めて、きちんと未来へつなぐための整備が必要です。ノートルダム大聖堂の火災や、海外の美術館での被害を見ても、貴重な資料をどう収蔵するかは非常に大事だと思います。

【委員】現在、文化的なものは、デジタル化をして収蔵していることが多いと思います。ですので、展示と収納、収蔵については分離できる部分もあるのではないかと思います。

【市長】本当に守らなければならないものはどこに置くのか、既存施設や空き校舎なども含めて、トリアージのように整理しながら考えていくことが大事だと思います。収蔵の環境についても、適切に検証していただきたいです。

【副市長】答申の56ページにあります、諸室構成表の中で、収蔵部門につい

ては1,130 m²が必要とされています。全体が3,800 m²となっている中で収蔵で1,130 m²というのは、かなり大きい割合であります。やはり収蔵の重要性が分かりますが、違う場所でも収蔵は出来ますので、そういうことも含めて考えていければ良いと思います。

【委員】子どもたちにとっての自慢の施設にしてほしいと思います。子どもたちが将来、友達を連れて伊賀に遊びに来て、「ここには絶対に行くべきだ」と案内できるような、芭蕉の歴史や伊賀の文化が集約されて見られる施設があれば素晴らしいと思います。子どもたちが小中学校のうちに、郷土に誇りを持ち、将来は結婚してよそに住んでも、自分の子どもや友達の家族にまで伊賀を案内できる、そんな象徴的な施設にしていきたいです。

【地域力創造部長】ありがとうございます。できるだけ何のためにやるのかということを確認にし、市民の税金を使っていく以上、持続可能な方法で進める必要があります。今回の事業手法によっては、一度にすべて更新するのではなく、補助金や交付金も有効に使いながら、持続性のある形にしていかなければなりません。市民生活への影響もありますので、財政と協議しながら、よりよい活用を進めていきたいと思っています。

【委員】以前、大垣市の「むすびの地」を訪問した際、東京から始まる映像が流れていて、大垣で最期を迎えるという構成でした。ただ、芭蕉は伊賀で生まれていますので、伊賀から始まって、どういう経路で旅をしていったのかという歴史的な流れも、子どもたちがわかるようにしていきたいです。芭蕉が東京から始まるのではなく、伊賀から始まっているということが伝わる施設にしてほしいと思います。

【地域力創造部長】ありがとうございます。今後、場所の選定や必要な機能の検討を早急に進め、芭蕉の歴史や文化をしっかりと伝えられる施設にしていきたいと思っています。ソフト面としても、芭蕉だけではなく、伊賀の歴史や文化をしっかりと教えることで、子どもたちが自然に芭蕉や伊賀の魅力を語れるようにしたいと思っています。そうしたことが、将来的に芭蕉を語る人材を育て、伊賀市の誇りにつながると考えております。

【委員】芭蕉で終わるのではなく、伊賀の文化全体をしっかりと伝えられる施設にしていきたいです。

【事務局長】ありがとうございました。それでは、協議事項については以上とし、報告事項に移らせていただきます。報告事項の1つ目「市民参加型予算事業（わくわくアイデア300）について」を未来政策課長から説明をお願いいたします。

【未来政策課長 資料に基づいて説明】

【事務局長】ありがとうございます。説明いただいた内容についてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

【委員】提案を出していただいた方が、事業化された際にその事業に参画できるのか、関わるができるのか、少し伺いたいです。

【未来政策課長】事業によって異なりますが、基本的には、提案いただいた方の思いも含めて、事業に反映していく考えです。たとえば、わくわく8のような文化財に関する調査事業であれば、専門的な知見を持って参画いただくこともあると思いますし、別の事業では市職員が中心となって進めるものもあります。可能な限り、提案してくださった方の思いを大切にしながら、参画していただける形も検討していきたいと考えております。

【委員】アイデアを出すだけで終わるのではなく、可能であれば一緒に参画していただけると、よりよいと思いましたので質問させていただきました。せっかく素敵なアイデアを出してくださる方にも、ぜひ参加していただけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

【委員】投票数は今どれくらいですか。

【未来政策課長】本日現在で 393 件の投票をいただいております。また、投票につきましては各小中学校へGIGA端末を活用して保護者の皆さんにもご案内をさせていただきました。

【事務局長】よろしければ、次の事項に移らせていただきます。次に、報告事項の2つ目「伊賀市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」を学校教育課長から説明をお願いいたします。

【学校教育課長 資料に基づいて説明】

【事務局長】ただいまご説明いただいた内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

【委員】校内教育支援センターの話が少し出ましたので、市長に聞いていただきたいです。不登校の子どもが多く、ちょっと背中を押してあげれば学校に行けるような子どもたちが行けていないという現状の中で、校内教育支援センターがかなり役に立っていると思います。設置した学校からも、学校に出ることができる

ようになった子どもが多いと報告されています。できれば、予算をつけていただいて、という訳ではありませんが、校内教育支援センターをもう少し充実させていただければと思います。もちろん、ふれあい教室もありますが、地理的に通えない子どももいますので、各学校に必要なところは設置していけるような形で支援していただけたらと思います。よろしくお願いします。

【市長】冒頭で申し上げた「生きる喜び」や、「多様な学び」というところにもつながると思っておりますので、そういう方向にしっかり前向きに進めていきたいです。多様な学び、いろいろな選択肢を増やしていかなければならないと思っております。校内教育支援センターは極めて重要だと思います。

【委員】それが充実すると、先生の家庭訪問や個別対応の時間も削減できるという意味でも、非常に有効だと思います。

【事務局長】それでは、次に報告事項3つ目、「地域とともにある学校づくり」について、学校教育課、そして生涯学習課から説明をお願いいたします。

【学校教育課長、生涯学習課長 資料に基づいて説明】

【事務局長】ありがとうございました。ご説明いただいた内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

【委員】今後、学校が合併・統合していくということが進んでいくと思うのですが、そのときに学校を抱える地域も一緒になっていかなければならないですね。その橋渡しはどの部署でやるのですか。

【学校教育課長】これは、先ほど申し上げた生涯学習課の役割にもなりますし、地域連携の部署とも関わると考えています。今、学校では、統合した学校も含めて、子どもが通っている地域ごとにきちんと活動が進んでおり、たとえば成和東では、古山地域に探検に行っていますし、阿山地域であれば、玉滝地区、鞆田地区にも出向いていろいろな人を呼び、満遍なく活動を考えています。これまでは学校が中心になって進めてきましたが、今後は地域と連携しながら、統合していったときにも学校と地域が結びつけるよう、地域の代表の方など、つないでくれる役割の方を中心に進めていくことが理想だと考えています。

【市長】同じことを私も考えていました。未来構想の中で、そうしたことをどう説明していくのか、あるいは1つのエリアとしてまとめて関わりを持つ考え方もあるでしょうが、一方で統合前のエリアのアイデンティティやつながりがどうなっていくのかも気になります。

【委員】今後、そのあたりを地域も含めて考えながら、学校統合等を進めていかなければならないと思っています。

【市長】学校はなくなるけれど、地域とのつながりや子どもの居場所は非常に大事だと思っています。

【学校教育課長】そうすると、学校だけで「みんな集まって、こうしよう」とするのではなく、地域には地域の子どもというつながりも大事なのだと思います。

【市長】最近、国が「学校を開放して、夏休みの子どもの居場所にしてください」と言いますが、教職員の負担なくどうやって着実に進めるのかということを考えています。学校管理の権限を市長部局や教育委員会でどう分担するか、日によってどう使うか、時間帯によってどうするかなど、考えなければなりません。

【教育長】職員が少ない学校では、夏休みもずっと学校でフォローしろというのは厳しいです。大きな学校でしたら週1回でもいいのではないかと、ということもあるかもしれません。学校施設はどんどん使っていただいていると思います。実際にいろいろな学校で使っていただいているので、動線管理やルールを整えれば、学校閉鎖中でも鍵を渡して、見てくれる人がいればどんどん使っていただけると思います。夏休み中の子どもの居場所は、働かなければならない家庭にとっても重要ですし、食の問題も心配です。社会全体で子どもたちの居場所をつくっていかねばならないと思います。これは部局を超えて考えていかないといけない問題であります。これから先、夏が涼しくなることはありません。教職員は家庭訪問を行いきちんと食べているのかなどを見回ってくれています。夏休み中でも、学校から報告が上がってくることがあります。

【市長】夜の体育館をスポーツで借りる場合、鍵を開けるのは学校なのか、スポーツ部局なのか、そのあたりはどうなっていますか。

【学校教育課長】その件につきましては、何年か前からスポーツ部局で対応しております。

【副市長】その仕組みは体育館だけです。

【委員】校舎も開放しようと思うと、セキュリティのことも考えなければいけませんし、設備改修のこともありますから、難しいですね。

【事務局長】ありがとうございました。それでは、協議事項、報告事項を含めた全体を通して、改めて何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

【委員】先ほどの教職員の業務改善の件ですが、伊賀市はかなり頑張っていると思いますし、成果は上がっていると思います。それでもメンタル面が改善されないのは、人が足りていないことが原因だと思います。県の人事ではありますが、市から補充があれば現場はかなり緩和される部分があると思います。市がいかに現場の人的な部分をフォローしてくださるかが、業務改善、ひいては子どもたちの学びやすい環境づくりにつながると思います。そうした人の投入について、ご配慮いただきたいです。

【市長】多様な学びということで幅が広がっていく中で、市は決断しなくても良いのかという思いはずっと持っています。

【委員】学びの多様性を担保することは大事ですが、例えば学校の中にふれあい教室を持つような形で、分離しすぎない状態をつくるのが大切だと思います。社会そのものに多様性があるということが重要だと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】学校の統合はもっとスピード感を持って進めていかなければならないのではないかと考えています。先生の働き方の観点から見ても、複式学級になってクラス数が減ると、教員一人一人の負担が増えます。多様な学びという意味でも、小規模すぎる学校では学びの機会が少なくなることがあります。今、ある学校では1学年に5人、6人しかいないような小学校もあります。今後子どもが増える見通しもない中で、5年先、6年先はわかっている状況なのに、地域との話し合いが進まず統合が進まないのは問題だと思います。各地区の夏祭りなどで市長にも現地の声を聞いていただいていると思いますが、各地区の意見を吸い上げながら、統合に協力していただければと思います。

【市長】先ほども申し上げましたが、地域と子どものつながりや居場所をどうつくるかを、しっかりやっていかなければならないと思います。ただ、地域の自治という部分で色々な世代の方などがいる中で、そこがうまく回っていないということがあるのかなと思っています。

【委員】子育て世代の声としては、学びは大人数の中でしたほうが良いという保護者の方が多いです。ですが、地域の方が、今まで自分が育ってきた学校や環境が無くなるということが寂しいということだと思います。ただ、その気持ちより未来の子ども達のことを考えることが重要という所を訴えていくしかないと思います。今の学校と地域の連携という所で、地域の良さを失わない形で、子ども達を大きな学校に連れていくということを見せていくしかないのかなと思います。

【市長】ですので、小規模保育園の活性化や自然保育などをやっていますが、地域に学校が無くなった後に、保育園をもっと活性化したり多機能化したりなど、

保育園にはこだわって取り組んでいます。

【委員】学校みらい構想の中では、地域で子ども達の登下校している姿が見れなくなることが寂しいといった意見がたくさん出ましたが、旧小中学校に集まって、そこからスクールバスなどで行くなどのことを考えれば良いのではないか、ということも思います。

【市長】放課後の居場所がそこにあるということも重要なかなと思います。そのような教育委員会だけでは解決出来ない課題を、子ども部局などと話をしていく必要はあると思います。

【委員】子どものことを中心に考えると統合していくべきだということになると思います。

【委員】10年先には、本当に大変なことになっていると思います。ただ、その時になってから考えているようでは間に合わないと思います。早期に考える必要がありますし、どのような形が子ども達にとって良いのか、地域にとって良いのか、ということを地域の方々と話を深めていって欲しいと思います。資料4の「地域とともにある学校づくり」については、子どもを中心に考えていけないといけないので、そこは通学の負担のことや、地域が寂しいということもあるかもしれませんが、それよりも先に考えることがあると思います。学校訪問で各学校を回らせていただきましたが、少人数だから力がついた、大人数だから力がつかない訳ではないです。少人数でも力がつかない学校もあります。色々と感じながら学校を回らせていただきましたが、「切磋琢磨」することも大事なことの1つなのかなと感じました。また、統計書などで目に見えている訳ですので、学校みらい構想を早く進めていけないと感じております。

【教育総務課長】地域の方々の意見は聞かせていただいておりますが、保護者の方の意見は地域とは少し違うことがあります。地域の方の意見は住民自治協議会、まちづくり協議会などを通じて伺うことが多いのですが、今後は保護者の方たち、PTA 役員の方たちにも意見を聞かせていただく場を設定していきたいと考えています。

【市長】地域の方と保護者の方と一緒にすることは難しいですか。

【教育総務課長】保護者の方と地域の方と一緒にすると、どうしても保護者の方が地域の方に付度してしまう面があるという話も聞いておりますし、アンケートの回収も地域が行うため、遠慮して書かれているということもあるようです。そのため、保護者の方の声もぜひ聞いていただきたいと思います。市長からもそのあたりをお願いしていただけたらと思います。

【市長】全体の最適を考えるためには、地域だけでなく保護者の意見もしっかり聞かなければなりません。

【副市長】地域から学校が無くなる寂しさというのは子どもを持たない方達が強い傾向にあります。一方で、子育て世代の方たちは自分の子どもの教育環境のことを考える。そこに考え方の溝が出来てしまうのだと思います。また、保護者についても自分の子どもが学校の統廃合に関係するかどうかで問題に向き合う真剣度がかかなり変わってきます。学校統廃合については、子どもの未来を第一に考えなければならないと思います。

【事務局長】ありがとうございました。それでは、最後にその他に入らせていただきます。事務局からお願いいたします。

【事務局】本年度第2回目の総合教育会議の開催につきましては、2月に開催したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局長】それでは、令和8年度第1回伊賀市総合教育会議を終了させていただきます。今後ともご意見、ご提言などをいただきますようお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(午後4時05分終了)